

# 地震による地域危険度測定調査 平成25年度 検証結果

## はじめに

本市の地震に対する危険性を把握し、市民と行政などが協働で災害に強い都市づくりを推進することを目的に、平成20年度に「地震による地域危険度測定調査報告」を作成しました。この調査は、5年ごとに実施することとなっていることから、平成25年度に最新の固定資産課税台帳データや建物の更新状況をもとに、建物倒壊危険度、火災危険度、道路閉塞確率及び地区内通過確率の検証を行いました。

## 1. 建物倒壊危険度

地震の揺れ、地盤の液状化により、建物が倒壊する危険性を建物の構造、建築年代などのデータを用いて測定したものです。測定結果は、町丁目ごとに危険度を5つのランクに分けて、相対評価をしています。

## 2. 火災危険度

建物から出火し、延焼する危険性を測定したものです。測定結果は、クラスターという出火を放置した場合に最終的に焼失する建築群で表しています。

## 3. 道路閉塞確率

沿道建物の倒壊により、道路が閉塞する危険性を測定したものです。市内の緊急輸送路を対象に緊急車両及び歩行者について、測定しています。

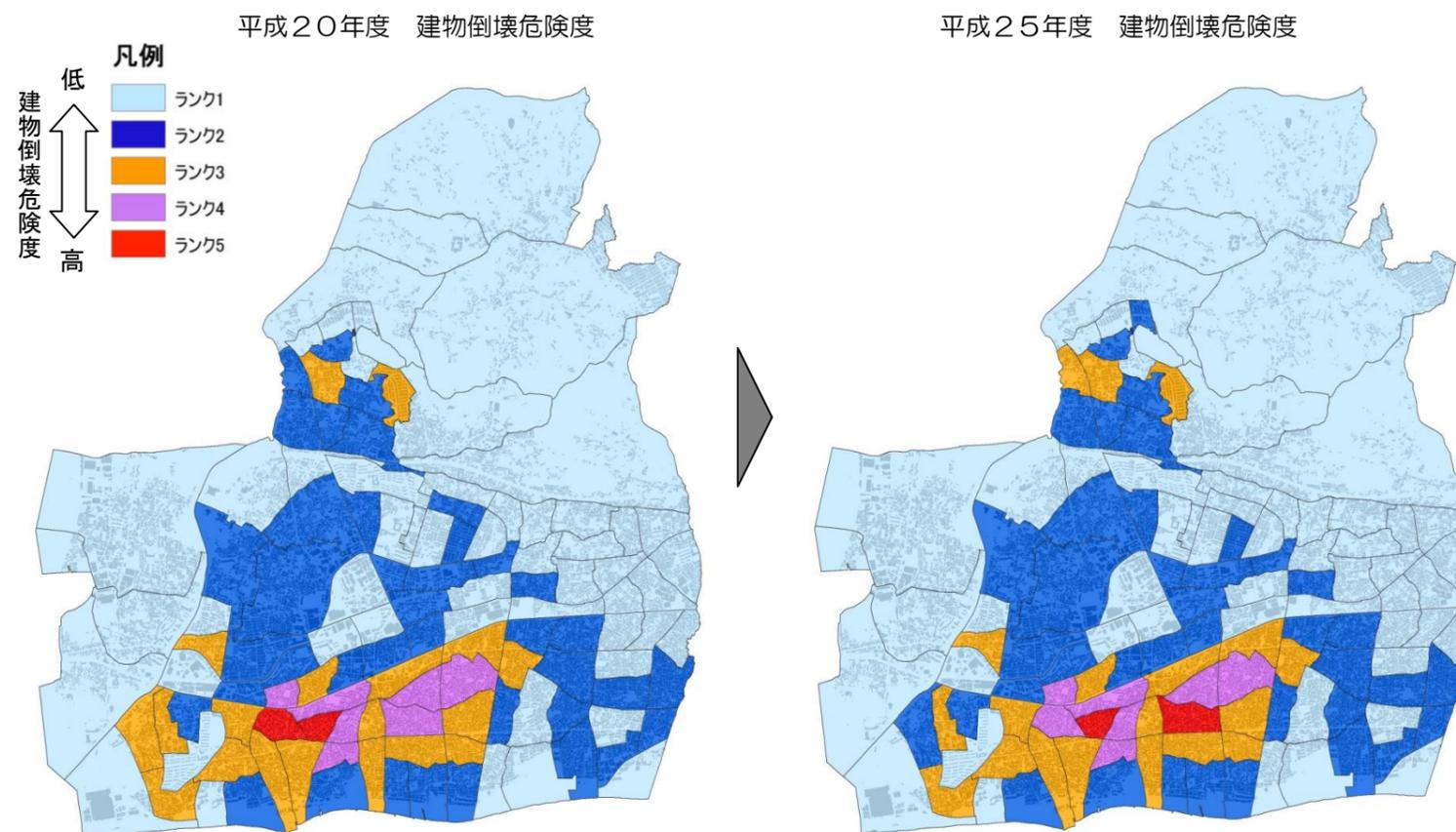
## 4. 地区内通過確率

地震発生後の、各町丁目ごとの車両の移動・通過のしやすさ及び人の避難・通過のしやすさを測定しています。

※各測定方法は、「平成20年度 地震による地域危険度測定調査報告」を参照してください。

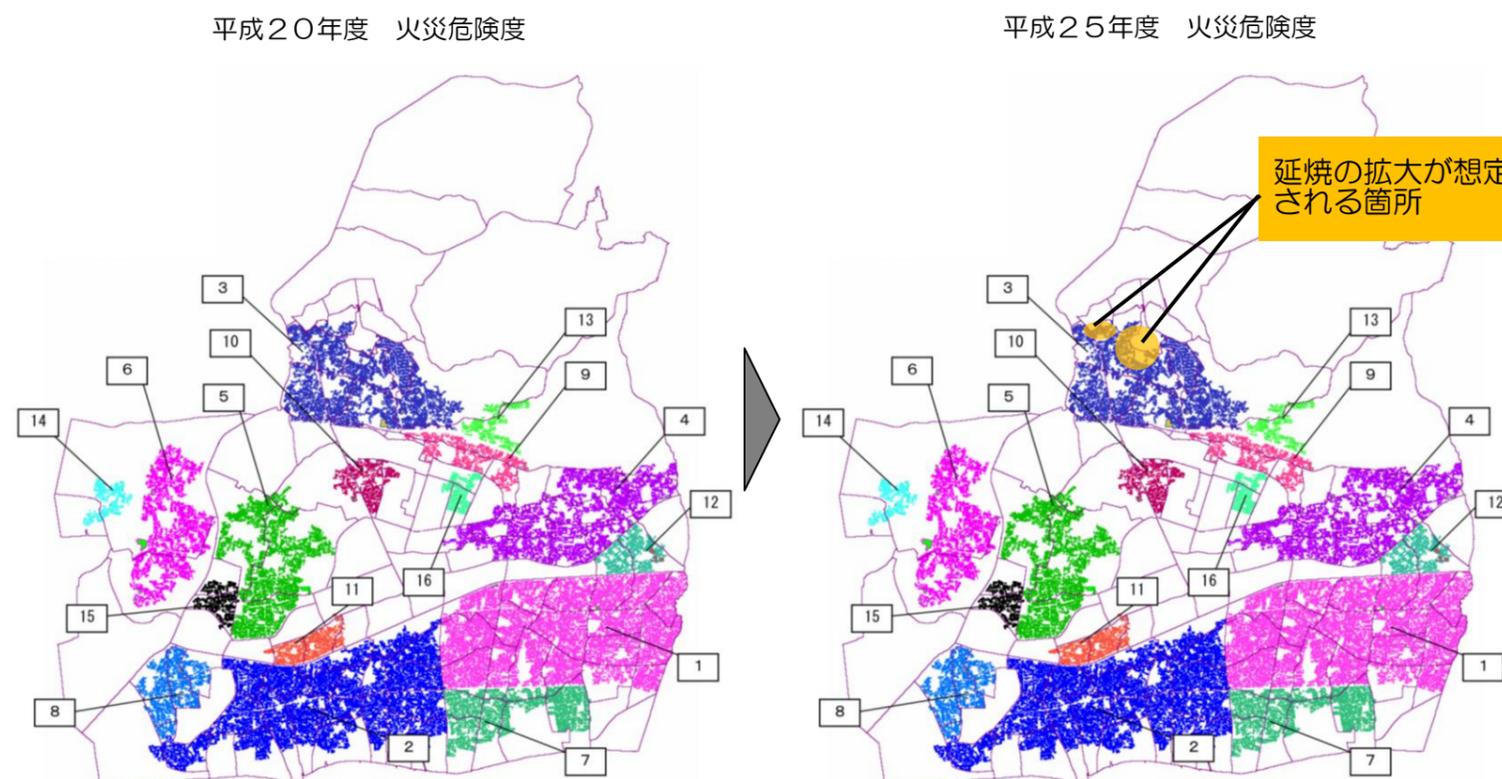
## 1. 建物倒壊危険度

- 平成25年の固定資産課税台帳データに基づき、危険度を改めて測定しました。
- 倒壊危険度量[棟/ha]を5段階で相対評価しているため、全壊量が20棟減少した「南湖三丁目」で危険度が「5」→「4」に変化したことにより、「東海岸北二丁目」が「4」→「5」となるなど、若干の順位の変動がみられましたが、大きく変わりはありませんでした。



## 2. 火災危険度

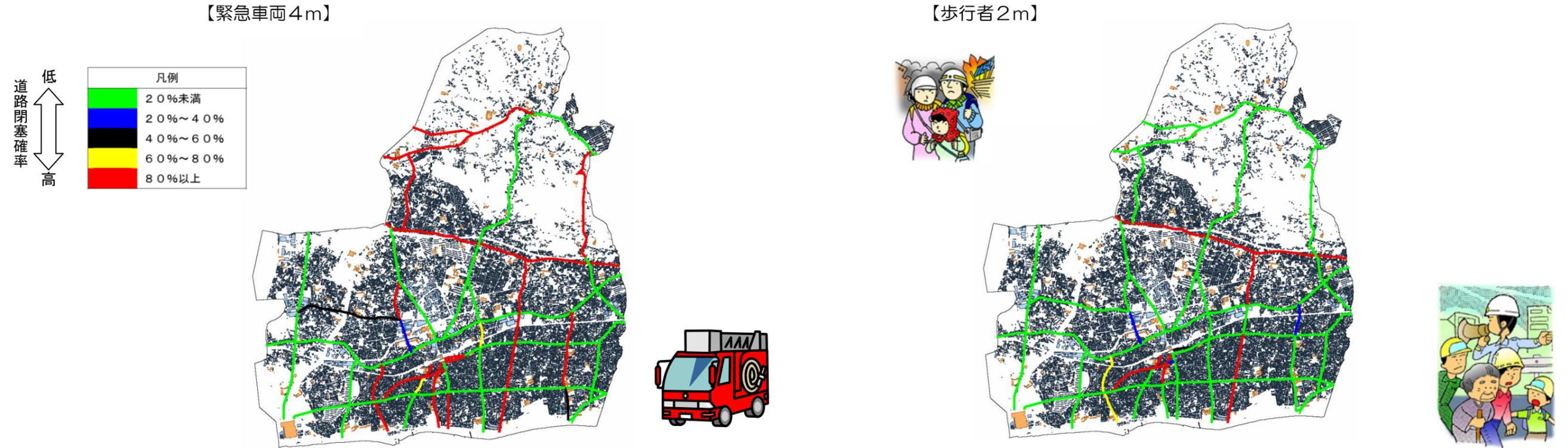
- 市内の緊急輸送路などの沿道建物に着目し、建物の更新状況からクラスター（延焼運命共同体）が分断されるか否かを確認しました。
- 建物の更新にかかわらず、道路を挟み裸木造が向かい合う箇所が点在し、引き続き延焼の危険性があります。
- クラスターNo.3については、みずき地区において住宅が新築されたことにより、みずき一丁目の駒寄川以南及びみずき四丁目のあわせて約250棟に延焼が拡大することが想定されます。



### 3. 道路閉塞確率

・市内の緊急輸送路などの沿道建物の更新状況を確認しましたが、建物更新による道路閉塞確率の変化はみられませんでした。

<参考> 平成20年度 道路閉塞確率



### 4. 地区内通過確率

・建物倒壊危険度の測定を踏まえ、全壊量を変数として用いている地区内通過確率を再測定しました。

・住宅の新築や建て替えなどによる全壊量の変化にともない、若干の変動がみられました。

